

高等学校

平成 5 年 度

教育 研究 員 研究 報告 書

家 庭

東京都教育委員会

# 目 次

I	主題設定の理由 .....	1
II	研究内容 .....	2
1	研究主題に対する基本的な考え方 .....	2
	(1) 課題解決学習による指導 .....	2
	(2) 家庭科における課題解決学習 .....	3
2	指導計画と指導上の配慮事項 .....	5
3	指導展開例 .....	6
	〔事例1〕 高齢者の生活と福祉の指導 .....	6
	〔事例2〕 グループ研究及び発表を取り入れた被服領域の指導 .....	9
	〔事例3〕 選択「食物」における食生活改善を図る指導 .....	12
	〔事例4〕 加工食品の活用を中心とした食物領域の指導 .....	15
	〔事例5〕 ごみ問題を中心とした住生活領域の指導 .....	18
	〔事例6〕 環境問題を通して生活認識を深める住生活領域の指導 .....	21
III	研究のまとめと今後の課題 .....	24

## 平成5年度

### 教育研究員名簿

学 校 名	氏 名
都立蒲田高等学校	石 井 麻 恵
都立大森東高等学校	角 田 聡 子
都立武蔵丘高等学校	西 祐 貴 子
都立荒川商業高等学校	奥 田 由 美 子
都立第三商業高等学校	佐 藤 房 子
都立永山高等学校	河 村 美 穂

担当 指導部高等学校教育指導課指導主事 清水 ゆかり

## 課題解決能力を培う家庭科の指導

### I 主題設定の理由

平成6年度より施行される新学習指導要領では、基本方針の一つとして『自己教育力の育成』をあげている。また、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視するとともに、生涯学習の基盤に立ち、自ら学ぶ意欲を高めることを目標としている。

これからの学校教育においては、学習の基礎・基本の徹底を図るとともに、獲得した知識や技術を活用して思考・判断し、変化の激しい時代を意欲的・創造的に生きていくことのできる能力と態度を育成することが求められている。そのためには、これまでの一斉授業に代表される教師主導の授業形態から、生徒を中心に据える活動型の授業に変革していく必要がある。また、知識・理解を偏重することなく、学習過程で習得する意欲・関心・態度を評価し、生徒の持つよさや可能性を発見し、生徒を多面的にとらえることが大切である。

さて、高校家庭は新学習指導要領の施行により、すべての生徒が履修する科目となる。新しい家庭科は家庭生活に関する知識や技術の習得を図るとともに、現在及び将来の生活に対する意欲を喚起し、豊かな人間性の育成を図る人間教育としての面を一層強く打ち出している。

現在、私たちを取り巻く環境は、便利で物質的には豊かになり、生徒は与えられることによって満足しがちな毎日を過ごしている。その結果、生活体験はますます乏しくなり、日常生活に関して全く無関心で、自己の生活の充実・向上を目指して積極的に生活課題に取り組もうとする姿勢がみられなくなってきた。家庭科の指導においては、このような現実を踏まえて、実験・実習、調査・研究等の体験的、実践的な学習を通して生徒自身の生活を見つめ、その中から課題を発見し、自分の力で解決していこうとする能力、態度を一人一人に身に付けることが必要となっている。さらに、各自の家庭生活のみならず地域の生活にも目を向け、広く社会との関連において、家庭生活の充実・向上を図ろうとする積極的な実践力を育成することが望まれる。

そこで、今年度は、ある一つの題材を通して、課題解決能力を育成する指導を研究することにした。新学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒の主体的な活動を重視し、特に指導過程に重点を置いて、継続性のある指導について研究を深めることにした。

## II 研究内容

### 1. 研究主題に対する基本的な考え方

#### (1) 課題解決学習による指導

課題解決学習による指導とは、一般に学習者にある課題を与え、学習者がその課題に主体的に取り組み、科学的思考を働かせ、解決方法や原因を探求する過程の中で、必要な知識・技術等を学び、学習内容を習得させる指導方法である。したがって課題解決学習には

- ア 何を解決すれば良いのかという目標を持てるようにする
- イ どうして課題を解決することが大切なのか考えられるようにする
- ウ 結果を予想する段階を設ける

ことが大切であり、生徒が与えられた課題を自分自身の課題としてとらえることが重要である。また、問題点を分かりやすくするためには教師の準備や意図的な働きかけが必要になる。

授業を行うに当たり、まず考えることは、生徒が解決に向かってやってみようという意欲を起こすことができるよう、学習のねらいに即して場面を工夫することである。そのためには興味・関心のもてる課題を提示することが重要になってくる。なぜそのことを課題としなければならないのかが分かれば、目標がより明確になり、生徒は意欲を持って取り組むことができるであろう。また教師は、知識を教え込むのではなく、あくまでも生徒を主体としつつ、よりよい方向へと問題意識をもたせる指導方法の検討も大切になる。そして、学習の結果だけを評価するのではなく、そこへ到達するまでの過程を重視しなければならない。以上を考慮して、指導過程を下表のように5段階に分けることができる。

この学習方法は教師による説明を主とする学習とは異なり、課題解決の過程を学び、その方法を身に付けさせ、生活に活用できる力を養うことが重要である。それゆえ、科学の既成の内容の受容を重視するこれまでの系統学習とは異なり、科学研究の過程を踏まえ、その方法を身に付けさせ、さらに発展させていく能力を養うことが重視される。また1つの課題が解決される過程で、新たな課題が引き起こされ、学習が連続していくことが特徴である。

教師の指導過程	生徒の心理
1 {課題} の提示	「オヤ?」「どうしてだろう」
2 {予想} の成立	「たぶん~だろう」
3 {課題} の検討	「考えてみよう」「やってみよう」
4 {課題} の解決	「なるほど」「わかった」
5 {目標} の達成	「できた」「ほかにもやってみよう」

## (2) 家庭科における課題解決学習

ア 意義 家庭科の学習目標は、男女が協力して家庭生活を築いていくことの重要性を認識すること、社会環境の変化に対応した生活に必要な知識や技術を習得すること、主体的に生きる力を養うことである。変化の激しい今日の社会においては、これらを目標に充実した家庭科の学習が行われても、習得した知識や技術が、生徒の今後の生活の中で、そのまま役に立つとは限らない。さらに、学校教育の中では、卒業後の生徒の生涯で会うすべての課題を予測し、それに対する適切な知識・技術を習得させることは不可能である。

そこで、生徒自身が、新しいもの・変化していくものに常に対応できる能力を育成することが必要になってくる。言い換えれば、自分の生活の中から課題を見つけられる能力、その課題に対して、自分の生活に即して最も適した解決法を見つけ、行動に移すことができる能力を身に付ける必要があるということになる。

イ 高校家庭科の各領域において課題解決能力を育成するために不可欠な学習目標

### <家族と家庭生活>

- ・家庭生活の在り方を考え、自らの生き方を選択する。
- ・高齢社会について考え、自分の問題としてとらえる。
- ・将来を見通した生活設計を考える。

### <家庭経済と消費>

- ・消費者としての自覚を持つ。
- ・適切な商品・サービスを選んで購入する習慣を身に付ける。
- ・家庭と社会のつながりを認識し、あらゆる問題が個人の立場から広く社会へとつながっていることを実感する。

### <衣生活>

- ・衣料品の利用・管理に関する基礎的な知識と技術を習得する。
- ・日常着のデザイン・製作の過程を生かし、創造的な衣生活を営む。

### <食生活>

- ・食生活を見直し、問題点の改善を試みる。
- ・食生活の向上を図る能力を育て、自発的に考える習慣を身に付ける。
- ・栄養・食品・調理に関する基礎的な知識と技術を習得し、科学的に理解するとともに現状の食生活を改善するために役立てる。

### <住生活>

- ・住居の機能を踏まえたより良い住まい方を工夫し、実践する。
- ・住環境・経済的条件を考えた上で、適切な住居の選択をする。
- ・地域・社会を含め、広く住環境について考える。

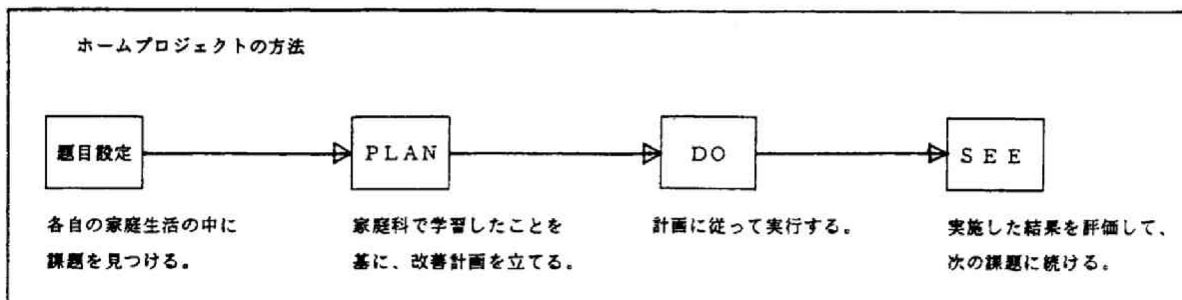
### <保 育>

- ・生命の大切さを認識し、健康な青年期の生き方の重要性を理解する。
- ・次世代を育てる者としての在り方生き方を考える。
- ・こどもを生き育てる環境を見つめる。

ウ ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 これまでも高校家庭科では、学習した知識や技術を実際の家庭生活に活用し、改善していくことを目的として、ホームプロジェクトを行ってきた。(図1) また、地域の生活の充実・向上を目的とした実践活動として、学校家庭クラブ活動が行われている。創造・勤労・愛情・奉仕の精神を基本とし、研究的な活動、奉仕的な活動などを通して、思考力・判断力・応用力・創造力などの社会人として必要な資質を養っている。

これらの活動は日常生活を見つめ、課題を発見し、課題解決の手段を考え、実践する学習活動であり、今後も推進していくことが大切であるが、より効果的にプロジェクト学習を進めていくためには、日常の授業において、生活の中に課題を見つけようとする意欲・態度を養っていくことが重要である。

エ これからの視点 現在の家庭生活は、もはや家庭の中だけで完結するものではない。家庭内の身近にある課題について考えていくと、必ず、社会や環境の問題に関わりを持つことになる。このことは、身の回りのものから、世界や地球といったより大きな視野に立ってそのことを考える基礎になるということができる。家庭科では各領域にとらわれることなく、広い視野に立ち、社会的問題を自分の生活に引き寄せて考え、改善策の実践に取り組み、その成果を家庭生活にフィードバックする態度を育てるとともに、容易には解決しない課題に対しては、問題意識を持ち続けるよう働きかけていくことが大切である。



そのことが生徒が生きていく上で真の力となり、人生の様々な場面で遭遇する課題に対して、的確な判断力・決断力を発揮する基礎となり、さらにより良い生活を創造しようとする意欲に結び付けば、家庭科学習がその使命を果たしたことになるのではないかと考える。

## 2. 指導上の配慮事項

- (1) 動機づけ…課題を提示し、生徒の意欲を喚起し、興味・関心のある方向へもっていく。
- (2) 指導過程…調査→適切な方法をアドバイスすることが必要である。

(例)・区役所等諸機関の利用方法

- ・アンケート調査用紙の作成の仕方、調査の仕方
- ・聞き取り調査の方法
- ・専門書の利用の仕方

実験→結果は様々であるので、事前にそれを予測した上で準備する。

→ワークシートは、できるだけ生徒が自分で書き込む形態のものを工夫する。

実習→安全に十分配慮する。

研究→授業で学習した内容を生かし、自主活動を取り入れる。

→資料提示のタイミングを考える。

発表→手順について助言する。

(例)・資料（プリント、図等）の作成

- ・資料の提示方法（VTR, OHP, 掛け図等）
- ・進行方法
- ・時間配分

→発表の聞き方を工夫する。

- (3) 考察……ア 意欲をもって積極的に課題に取り組めたか。  
イ 課題を適切に解決できたか。  
ウ 新たな問題解決に発展していくことができるか。
- (4) 評価……結果よりも過程を重視して評価することが大切である。

(例)・意欲、関心、態度の評価

- ・創造力、思考力の評価
- ・自己評価、相互評価の活用

### 3. 指導展開例

#### [事例1] 高齢者の生活と福祉の指導

(1) 題材名 調査・研究活動を取り入れた高齢者の生活と福祉の指導

(2) 題材設定の理由 ライフサイクルの変化，高齢化社会の到来，核家族化の進行などにより家族・家庭の機能は大きく変化し，行政による公的援助なしには家庭生活は成り立たなくなりつつある。高齢者福祉に関して，市町村で様々な取り組みが実施されているが，どのようなサービスが行われているのか生徒はほとんど知らない。そこで，地域の福祉の実情について知識を得るとともに，それらの諸制度を活用できる力量を身に付け，地域社会を支える一員として，社会に参加する態度を身に付けることを目標に本題材を設定した。

(3) 学習目標

ア 高齢化社会の現状及び高齢化社会に関する諸問題を解決する手段・方法について理解する。

イ 身近な諸機関の調査・研究を通して，その利用方法について知る。

ウ グループ活動により，協力し合うことの大切さを認識する。

(4) 指導計画 13時間（第2学年 女子）

授業項目	時間	授業過程	備考
高齢者の心身の特徴と家庭生活 高齢化の状況	2	○高齢化社会を迎えていることを身近な問題としてとらえる。	VTR「老いを支える」 ワークシート
高齢者の心身の特徴	2	○加齢に伴って心身にみられる変化について理解する。 ○車椅子試乗体験 二人一組で交替で車椅子に乗り，どのような感じがするか体験してみる。	プリント プリント
高齢化社会の諸問題	2	○新聞の切り抜きにより高齢化社会の問題点及び原因などを調べ発表する。	新聞切り抜き



高齢化社会の現状に関する 実態調査の準備	1	○地域の高齢者福祉の実態について調査することを 知る。 ○居住地を中心にグループを作り、調査する内容を 決める。	都内地区 区の便利帳、 区報など
調査・研究活動	課外	○調査及び研究をする。 ○施設を訪問する場合は事前に連絡する。施設内 で写真撮影をする場合は許可をもらう。	カメラ、カセット コーダ など持参 .
社会福祉の意義	2	○高齢者福祉について考える。 ○日本の福祉の現状について諸外国と比較して みる。 ○「老人たちの孤独な日々・福祉国家デンマークは いま」を視聴する。	プリント  VTR
高齢者の介護	1	○介護のあり方について考え、意見交換する。	プリント
研究発表	2	○調査結果をグループごとに発表する。 ○他のグループの発表を聞き、評価用紙にまとめる。	OHPなど 評価用紙
高齢者福祉の課題	1	○高齢化社会に向け、積極的な対応ができるように する。	



(5) 評価の観点

- ア 課題に対して意欲的に取り組んだか。
- イ 課題を解決する方法について理解できたか。
- ウ 調査・研究を通して、高齢化社会の到来を自分自身の課題として受けとめることができたか。
- エ 地域の生活や家庭生活において、その時々課題や条件に合わせて創意工夫をする態度が身に付いたか。

(6) 授業後の考察

- ア 生徒の発表による授業は、事前準備の重要性、調べたことをまとめ、他人に伝えることの難しさなどの課題を残した。教師自身も最小限授業の流れのポイントを押さえ、生徒の努力の成果が、十分発揮できるよう支援することが必要であると感じた。
- イ 体験学習、調査・研究活動は学習内容をより身近なものとし、生徒の問題意識を高める上で有効であった。また、在住地域を中心としたグループ学習に、生徒は協力して取り組んだ。
- ウ 視聴覚機材を利用することによって、生徒に興味・関心をもたせるとともに授業に深みをもたせた。

(7) ワークシートの例

<p>(2) 在宅福祉（介護援助）</p> <p>1) ホームケアサービス（武蔵野市） 一人暮らしの老人にとってなくてはならないもの。家族でできないところを市が対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームヘルプサービス 自分の身のまわり、家事ができない老人の家庭に（ ）を派遣</li> <li>・（ ）サービス 自分で調理できない、栄養が偏ってしまう、…1日おきに昼食を届ける</li> <li>・訪問看護 難病回復訓練・介護の仕方を手伝う</li> <li>・（ ）の巡回</li> <li>・調整サービス</li> </ul> <p>2) デイサービス…ほけ防止・ほけを和らげる 武蔵野市北町高齢者センター 昼の食事を中心にその前後にいろいろな活動をする（普通・手型） （ ）が支えている（食事作り、手型を教える）</p> <p>3) 地域に根づいたボランティア活動 ボランティアの必要性 高齢者が病気になると家庭での介護が大変になる…からだの自由がきかない お年寄りから目が離せない 通日通夜、家族中が疲れ家崩壊の危険…近所、地域の救いの手</p> <p>4) 杉並・老後を良くする会 老人の暮らしを調査…多くの人が（ ）で疲れたり突然で困っている</p> <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事を作って届ける （ ）にする、（ ）の長いもの、小さく切る、 デザートに果物を添える、汁ものを添える、</li> <li>・呼び方…おじいちゃん、おばあちゃんではなく（ ）を呼ぶようにする、</li> <li>・体の不自由な人のそうじ、片付けなどの手伝い、病院へ車を取りに行く、</li> <li>・一人の会員が一人の老人を受け持つ（ ）方式</li> </ul> <p>介護は（ ）への援助 （相手の世界に立って介護）</p>	<p>1) ホームヘルプサービス 自分の身のまわり、家事ができない老人の家庭に（ ）を派遣</p> <p>2) デイサービス…ほけ防止・ほけを和らげる 武蔵野市北町高齢者センター 昼の食事を中心にその前後にいろいろな活動をする（普通・手型） （ ）が支えている（食事作り、手型を教える）</p> <p>3) 地域に根づいたボランティア活動 ボランティアの必要性 高齢者が病気になると家庭での介護が大変になる…からだの自由がきかない お年寄りから目が離せない 通日通夜、家族中が疲れ家崩壊の危険…近所、地域の救いの手</p> <p>4) 杉並・老後を良くする会 老人の暮らしを調査…多くの人が（ ）で疲れたり突然で困っている</p> <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事を作って届ける （ ）にする、（ ）の長いもの、小さく切る、 デザートに果物を添える、汁ものを添える、</li> <li>・呼び方…おじいちゃん、おばあちゃんではなく（ ）を呼ぶようにする、</li> <li>・体の不自由な人のそうじ、片付けなどの手伝い、病院へ車を取りに行く、</li> <li>・一人の会員が一人の老人を受け持つ（ ）方式</li> </ul> <p>介護は（ ）への援助 （相手の世界に立って介護）</p>
---	--

ほけの症状…最初物忘れがひどくなったり、話しや行動に振り回しが多くなる

ほけしないためには

- ・健康であること
- ・家の中に閉じこもらず人と接すること
- ・受け身でなく前向きに楽しく過ごすこと

ほけ老人の世話

- ・（ ）を持って贈る…情緒の安定（安心感）
- ・呼びかける…刺激によりほけの進行を抑える
- ・つじつまの合わない話しに対して反論しない
- ・除菌剤のある老人の場合（ ）をつける（家に閉じ込めておくとはけが早く進行する）
- ・収菌剤のある老人の場合収菌も仕事として認める（他人のものも自分のものと思う）
- ・寝付きが悪くなったり、不眠を訴える時睡眠薬は与えない
- ・錯覚による興奮（急に泣き出したり、おこりだす）易しく言葉を替けると落ち着く
- ・小さな（ ）を割り当てる

[事例2] グループ研究及び発表を取り入れた被服領域の指導

(1) 題材名 衣生活における商品及びサービスの選択

(2) 題材設定の理由 現在、「家庭一般」では、充実した衣生活を営むことのできる能力と実践的態度を養うために、着用目的を踏まえた被服の機能・着装、被服材料に関する基礎的な知識や日常着のデザイン・製作、被服管理の知識・技術を習得させている。一方、現在の衣生活では、商品を購入し利用する機会がふえており、適切な商品を選んで購入する能力を養う必要があると考えられる。

現時点でどの様なものを選ぶべきか、基礎的な知識を得るのはもちろんのこと、生徒のこれからの生活を考えれば、自分の力で必要な知識を得て、それをを用いて商品及びサービスを選べるようになることが望ましい。商品及びサービスに関する情報は、TVのCM・雑誌・消費者団体のレポート等多種多様なものから得られる。今回はグループで協力しながら、その中から必要な知識、自分たちの生活に役立つ知識を見つけ出し、それを分かりやすく他者に伝える表現力をつけるために発表をする。

このグループ研究及び発表を通して、今後生徒が出会うであろう様々な新製品・新サービスやその周辺の課題に対処し、適切な選択ができる能力を養うことを目的に本題材を設定した。

(3) 学習目標

- ア 衣生活に関連する商品及びサービスの現状が認識できる。
- イ グループで協力していろいろな情報源から様々な情報を収集できる。
- ウ 情報の中から必要なことを取り出し、分かりやすくまとめ、表現できる。

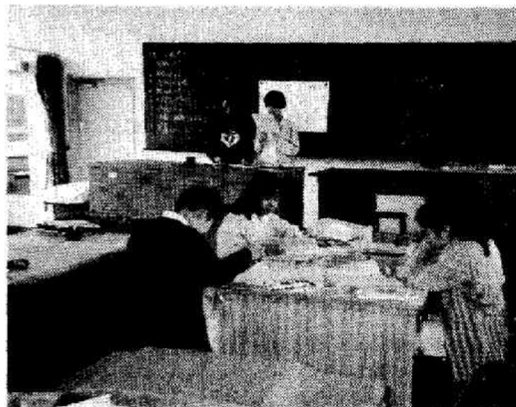
(4) 指導計画 4時間(第2学年 女子)

授業項目	時間(分)	授業過程	備考
グループ研究 準備	15	○衣生活における商品及びサービスに関するグループ研究及び発表の概要を知る。 ・テーマの例を示す。  ○テーマごとにグループを決める。 ・3～4人のグループに分かれる。	メンバー・テーマ記入用紙
資料収集	課外	○次回持参する資料を集める。	

資料調べ (グループ学習)	50	○持参した資料から発表に必要な情報をまとめる。 ・グループごとに集まる。 ・学校にある資料を必要に応じて活用する。 ・必要に応じて教師に相談し、重要なポイントを落とさないようにする。	資料
発表準備	課外	○不足している資料を探し、調べる。 ○発表時にクラスに配るプリントを作成する。 ○発表の練習をする。	印刷原稿用紙 (各グループ B4, 2枚)
研究発表	100	○各グループのプリントを冊子にまとめる。 ○発表…自分のテーマの発表をする。 他グループの発表を聞き、まとめる。 ○まとめ…全体の感想をまとめ、発表の評価をする。	グループのプリント ワークシート

#### (5) 評価の観点

- ア テーマに関する情報を幅広く集められたか。
- イ 調べたことを要領よくまとめられたか。
- ウ 聞き手に分かりやすく発表できたか。
- エ 取り上げられたテーマの商品及びサービスについて問題点を含め理解できたか。
- オ 今後の生活につなげる意識を持てたか。



#### (6) 授業後の考察

- ア いくつかのテーマ例を見ながら、グループごとに自由にテーマを決めたので、全体のイメージを持ちつつ、自分達の興味を持つ事に積極的に取り組めた。
- イ 資料調べの際には、教師のアドバイスのみでなく、お互いの資料を見ることで、様々な情報源が存在することを実感できた。
- ウ 情報源により、異なるデータが得られることもあり、それを利用して、実際に良い悪いを判断するのは自分自身であるということが理解できた。
- エ 発表や冊子にテーマの特徴やグループの個性が表れており、興味深く聞くことができた。

オ 冊子が手元に残るので、必要な時に読み返せると共に、今後の生活でも様々なことを考えてみようという意欲につながった。

(7) ワークシートの記入例

テ ー マ	発 表 の 内 容 ・ 感 想
洗 顔	・洗顔の仕方・洗顔料は安全か・自分に合った物を ・ニキビを作らなくするような生活など・ふきでものが出やすい私達の年代にとって聞く価値があったと思いました。
洋 服 の 選 び 方	・洋服の機能性について・シルエットについて・マテリアル柄について・被服材料の加工と用途 いつも着ている洋服にあれだけ多い機能性とシルエットがあるとは知りませんでした。 ・色柄・デザイン・値段をよく考えて服を選ぼうと思いました。
洗 剤 の 安 全 性	・洗剤の歴史・汚れを落とす目的・要求するもの・汚れが落ちるしくみ ・合成洗剤の安全性と環境問題について 環境にやさしい洗剤・人体に安全な洗剤選びは重視していきたいと思った。
エステティックサロン	・エステの必要性や危険性、ねらいは何か ・心の悩みがあったりすると美しくなれない事がわかりました。エステに通わなくても若々しい健康作りをしていきたいと思います。
アクセサリーや洋服による皮膚アレルギー	・有害物質を含有する家庭用品について・皮膚を刺激する用品 とても難かしい問題でしたが詳しく調べていました。アレルギーの可能性など身近な、自分に当てはまるかもしれない事なのでためになりました。

最もいろいろな角度からアプローチしていた発表のテーマ	洗剤の安全性
一番分かりやすかった発表のテーマ	アクセサリーや洋服による皮膚アレルギー
これからの自分の生活に一番役立ちそうな発表のテーマ	靴の選び方

自 己 評 価	どこで、何を調査したか。	雑誌、聞きこみ、「I you 消費者」より、下着について調査しました。
	良くできた所	テンポよくできたと思います。みんなに話を聞いてもらえるように体操などを取り入れたつもりです。
	うまくできなかった所	紙を見なくても説明できるほど練習すればよかったですと思います。
<p>・全体の発表を聞いた感想とこれからの生活にどう生かしたら良いかまとめなさい。 みんなの発表は最近話題性のあるものから日頃身に付けているものについてまで様々に調べてあってとてもわかりやすかったです。何事にも常に注意深く物事を見つめ直さなければいけないと思いました。冊子も作ったので後で読み返すことができるのでいいと思います。</p>		

※1クラス7グループ(平均3~4名)に分かれて、研究・発表した。

ほかに、「靴の選び方」「下着の選び方」をテーマとしたグループがあった。

〔事例3〕 選択「食物」における食生活改善を図る指導

(1) 題材名 食生活を見つめながら食品を選択する目を養う

(2) 題材設定の理由 食生活における課題解決学習は、自分の食生活をまず見つめ直すことから、生徒一人一人が安全で健康的な食生活を目指すことを目標に設定した。

現代は、豊かな食品に囲まれ多種の食品を選ぶことができる状況にありながらも、様々な調査などによると1日に摂取する食品数は厚生省の目標である30品目をはるかに下回っており、栄養素の摂取の面からみても、極めて貧しい食生活となっている場合が多い。特に若者の場合、洋食化が進み、身の回りにある機能性を重視した食品に頼って安易な食生活を送りがちである。そこで身近な食品を通して、自分の食生活の問題点を知り、健康を考えた時にどのような食品をどれだけ食べれば良いのかという食品の選び方を学ぶことを目的に、本題材を設定した。

指導方法としては、食生活診断の実施や調査、実験、VTR等の活用により、食に関する情報を選択し、自分の食生活の向上に結び付けられるかという課題に対し、個々の生徒が能動的に授業に参加できるように指導内容を検討した。また解決する過程を大切に、漠然とした認識を自分の問題として受けとめることができるよう工夫した。

(3) 学習目標

ア 実験、調査を通して身の回りの食品の安全性・衛生・栄養上の問題点を見つける。

イ 自分の食生活を振り返り、どのような食品をどれだけ食べれば良いのかという食品の選び方を理解する。

(4) 指導計画 21時間 (第3学年 選択「食物」 男女)

授業項目	時間	授業過程	備考
栄養について	4	○簡単な食生活診断を通して、食生活に対する関心の薄さに気付く。 ○栄養素の働きについて学ぶ。 ○食品が四つの食品群によって分けられることを知る。 ○自分の栄養所要量と食品群別摂取量を調べる。 ○四つの食品群を使った献立作成の練習(各自)	VTR「栄養素のはたらき」「四つの食品群」 ワークシート
	2	○自由献立の調理実習(班ごと)	

	1	○自由献立の栄養的な問題点を考える。	
身の回りの食品について	1	○食品の製造年月日、保存状態を調べる。 ○私たちの回りの加工食品について知る。	調査用紙
	2	○加工食品のうち、機能性食品を取り上げ、食品の機能を知らせるとともに、身の回りの食品では補えないかを調べる。(Ca, Fe, 食物繊維)	成分表 試食用サンプル ワークシート
	2	○調理実習 (Ca, Fe, 食物繊維の多いお弁当) (班ごとに1品ずつ作りお弁当にする)	
安全について	2	○食品添加物の表示について調べる。 (自宅にある物) ○食品添加物、輸入食品、農薬などについて問題点、選び方について考える。 ○身の回りの食品の安全性を考える。	調査用紙 VTR「食品添加物」
	2	○食品添加物実験	ワークシート
まとめ	5	○栄養を考えた献立を四つの食品群を使い各自が考える。 ○調理実習 (上記献立より班で1つ選択する) ○食生活診断2回目 ○献立作成、食生活診断を参考に、自分の食生活をどの様に直せば良いか、レポートを書く。 ○健康に暮らすための食品の選び方をまとめ、自分の食生活に生かす方法を理解する。	献立作成用紙



(5) 評価の観点

- ア 食生活診断等によって自分の食生活に関心を持ち、問題を見つけることができたか。
- イ 食品の安全性についてVTR, 実験, 調査などを通して理解することができたか。

- ウ 献立作成を通して、食品の持つ栄養や、食品の分類の仕方が理解できたか。
- エ 調理実習を通して、食品の概量や調理法が理解できたか。
- オ 生徒一人一人がどのような食品をどれだけ食べれば良いか等、食品を選ぶ力を身に付けられたか。

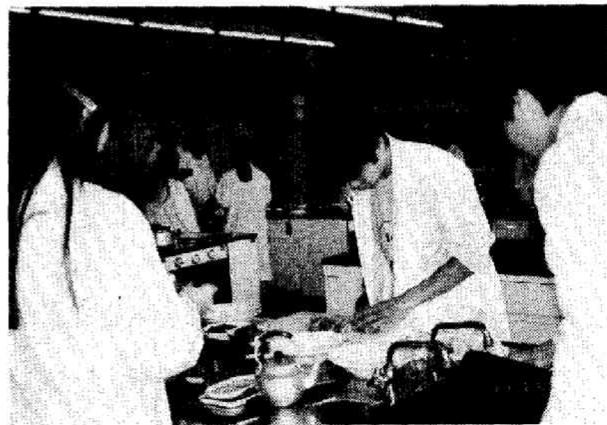
#### (6) 授業後の考察

今回の授業では生徒が自分の問題として食生活を考えられるようワークシートを工夫して指導した。また食生活診断を行い、具体的に数値で問題点を理解できるようにした。その結果、生徒に自分の食生活を改善しようという意識が育ったようである。

- ア 初めに食生活診断によって、自分の食生活の問題点を数値として見せたことが理解を助けた。
- イ VTRの活用は栄養について簡潔に理解させるのに効果があった。
- ウ 実験、実習、食品の試食などの体験学習を通して食品の問題点や取扱いが身に付いた。
- エ お弁当の実習では各班ごとに1～2品ずつ料理を作るということで、時間を有効に活用でき、1班ずつではできない品数の料理を時間内に作り、試食できた。この方法は今後取り入れていきたいと思う。
- オ 目標設定から解決までの時間が長く、生徒に継続して課題意識を持たせるのが難しかった。また評価については提出物中心になりがちなので、授業中の評価方法を今後の課題として考えていきたい。

#### (7) 生徒の感想

- ア 私の食生活は良い時と悪い時の差が激しいので、規則正しい食生活を送りたいと思う。
- イ 今まででは簡単に作っていたり、食べたいものだけ食べたりといろいろ直すところがあったので、これからは時間がかかっても料理を作っていきたい。
- ウ もう少し和食を多く取りたい。また今は親任せなので、自分の意見を取り入れてもらい改善していきたい。
- エ 身近なところに栄養のある食品がたくさんあるので、自分の食事にもいろいろ取り入れていきたい。





〔事例4〕 加工食品の活用を中心とした食物領域の指導

(1) 題材名 加工食品の特徴とその利用

(2) 題材設定の理由 飽食の時代と言われて久しいが、数多くの食品に囲まれ、食に関する情報の氾濫の中で、私たちの食生活は豊かとは言えない状況にある。本校でのアンケート調査においても、足しげくハンバーガーショップに通い、空腹になるとカップ麺を食べ、清涼飲料を日に何度となく飲む生徒たちの姿が浮かび上がってきた。また、家庭内の食生活においても、食料費支出に占める加工食品の割合は年々増加しており、完全な手作りによる食生活はいまや不可能となりつつある。そこで、生徒が加工食品を多用している食生活を振り返り、その中から問題点を見つけ出して改善していく能力を培うために本題材を設定した。私たちは日頃便利に利用しているにもかかわらず、加工食品を否定的にとらえがちであるが、本題材の設定においては、現状に即して最大限活用するように配慮した。

(3) 学習の目標 ア 身近にある加工食品の存在を認識する。

イ 加工食品の利用状況について理解を深める。

ウ 加工食品の長所・短所を理解し、食生活に上手に取り入れる能力を養う。

エ 私たちの食生活の問題点を加工食品の利用と併せて考え、日常の食生活の諸問題を解決する能力を養う。

(4) 指導計画 9時間(第1学年 男女)

授業項目	時間	授業過程	備考
加工食品の種類 加工食品の分類	1	○身の回りに多く存在する加工食品を認識する。 ○班ごとに具体的に食品名を挙げ、全体で大まかに分類する。 ○実物を提示しながら種類について補足説明する。 ○次回の試食について予告する。	ワークシート 掲示用紙 加工食品
加工食品の試食	2	○班ごとに持参した加工食品を指定された調理法に従って調理し、試食する。 ○結果(食品名・価格・調理法・味・感想)を記録する。	ワークシート
加工食品の特徴1	1	○試食の結果記録をもとに加工食品の長所・	

長所・短所を考える		短所について話し合う。 ○生徒の班での話し合いをもとに加工食品の特徴を整理する。 ○特に、ビタミン・食物繊維の不足，塩分の過剰摂取，味が画一的であることを強調する。	ワークシート 食品成分表
加工食品の特徴2 食品添加物について 加工食品の利用状況	1	○実際に試食した加工食品の中から食品添加物を抜き出し，使用目的・注意点を理解する。 ○加工食品が多用されている現状の食生活について理解を深める。	資料
加工食品の上手な利用	1	○加工食品の特徴を踏まえた上で，試食した食品の問題点を改善する方法を班で検討する。 ○生徒食生活アンケート調査の集計結果・現代食生活の問題点（学習済み）も参考にする。	集計結果
加工食品を食生活に活かす実習	2	○検討した改善方法に従って調理する。 ○その結果，改善された点，さらに残した問題について話し合う。	ワークシート
学習後の発表会	1	○試食から改善までの結果を，班ごとに発表し，まとめとする。 ○加工食品の情報交換会としても活用し，今後の食生活に役立てる。	ワークシート
キーワードを使ったまとめ	1	○加工食品の学習をキーワードを使ってまとめる。 ○今後，加工食品を食生活にどのように取り入れていくかについて作文する。	ワークシート

(5) 評価の観点 ア 身の回りの加工食品の存在を認識できたか。(班学習・ワークシート)

イ 加工食品の特徴を理解することができたか。(ワークシート)

ウ 加工食品を利用してその問題点に気付くことができたか。(班学習)



エ 加工食品の問題点を改善し、食生活に上手に利用する方法を考えることができたか。

(実習後の記録用紙提出による)

オ 加工食品の利用と併せて自分の食生活を振り返る機会となったか。(学習後の作文)

(6) 授業後の考察 今回本題材の指導計画を立てるに当たっては、生徒が自ら考える機会を増やし、現状での問題点が少しでも改善されるように工夫した。さらに、このような改善の積み重ねが、食生活を大きく変えていくことを実感するよう配慮した。

その結果、本題材の実践を通して感じたことは、生徒は教師の予想以上に、自ら考える力と行動力を持っているということである。時間をかけて順序よく導くことによって、問題点を認識したり、解決しようとする意欲を引き出すことができた。本事例の実践5・6時限(実習)では、通常の調理実習以上に積極的に取り組む生徒の姿が見られた。また、班での話し合い、意見交換も予想以上に活発なものとなった。

その一方で、題材の設定および指導の上で以下のような課題を残すことになった。

ア 生徒の加工食品に対する否定的なイメージは根強いものがあり、“体に良くない”と考える者がいた。もはや、加工食品に依存しない食生活は不可能に成りつつある現状をかんがみ、工夫して利用することの意義を考えさせるようにしたい。

イ 試食して改善を施す加工食品は、生徒の日常利用しているものを選択させたが、その結果、食品数が多くなり、改善方法の検討を行うに当たり教師の幅広い知識と経験および考え方の柔軟性が要求された。

ウ 改善の方法を検討する際に、目標を低く設定し、安易に実行してしまう生徒がいた。

エ 本校生徒の実態より、加工食品の改善が感覚的な面を重視したものとなったが、食品成分表等を用いて数字で改善の状況を認識させる必要を感じた。

オ 熱心に検討を重ね、様々な工夫をして調理したにもかかわらず、“何も手を加えない方がおいしかった”という生徒もいた。画一的な味に慣らされた味覚の問題についても、もっと掘り下げる必要があった。

[事例5] ごみ問題を中心とした住生活領域の指導

(1) 題材名 住環境を買い物袋を通して考える

(2) 題材設定の理由 住領域については、他領域に比べて授業を展開していく上で課題等が多いことから、これまで積極的な取り組みがあまり見られなかった。しかし、住居は家族の日常生活の場であり、人間が生命活動を営んでいく上で必要不可欠なものである。

また、人間は住居を拠点として家族と交わり、地域及び隣人とかかわり合う。家族関係が希薄化し、地域の連帯感が薄れてきた今日、住居及びそれを取り巻く環境について学習することは豊かな人間関係を育む上でも大切である。

近年、諸外国では地球的規模で環境問題に取り組んでいるが、この問題を自分の問題として考えている高校生はどれだけいるだろうか。一部の生徒を除いて、漠然とした認識でしか環境問題をとらえていない者が多い。そこで、住生活の学習の中で環境問題について取り上げることにした。特に、ごみが家庭内で増えていることに着目し、個々の努力がまわりの社会環境の美化に大きな影響を与えることを認識させたいと考え、本題材を設定した。

(3) 学習目標

ア ごみ問題を身近な問題として認識する。

イ 買い物袋に関する調査、実習を行うことによって、高校生一人一人の努力が社会環境を変えていくことにつながることを理解する。

(4) 指導計画 8時間(第2学年 女子)

授業項目	時間	授業過程	備考
家庭学習		○夏休みの課題として住環境に関する新聞・雑誌の記事の切り抜きをまとめる。	
住環境に対する動機づけと問題点 家庭の中のごみについて ごみの現状	2	○ごみに対する意識調査(アンケート)を行う。 ○アンケートをまとめる。  ○家庭の中で考えられるごみを居住空間別にあげ、グループごとに項目別に検討する。 ○家庭から出されるごみの多さに気づく。	ワークシート

家庭学習 買い物袋の収集		○販売店でもらう袋の収集と調査 (その袋に日付, 店名, 購入した物を記入する) ※次回授業までの1週間を使って収集する。	
買い物袋の必要性について考える	1	○家庭学習で収集した袋を持参する。これを1枚ずつ項目別に集計, 発表する。 ○再利用の方法を考える。 ○これらの袋が不必要な過剰包装の結果であることに眼を向ける。 ○袋の材質について知る。 ○買い物時に布袋を利用する方法を提案する。 ※次回授業までに布と糸の用意をする。	ワークシート
買い物袋の製作	3	○買い物袋(布製)を製作する。 ○使い心地を試す。	プリント
家庭学習		○次回授業まで本人がモニターになってたんで持ち歩き, 使用してみる。	ワークシート
住居のまわりの環境について	2	○買い物袋を使用することが, 家庭内でごみを減らすことにつながったかどうか考え, 発表する。 ○これまでの学習を踏まえ, 住居のまわりの環境について考える。 ○自分たちの住んでいる地域における自治体の取り組み状況を広報や区役所などからの資料をもとに学ぶ。 ○自分たちの住居の中の環境を改善することが, 住居のまわりの環境を改善することと密接な関係をもっていることを知る。 ※製作した買い物袋を提出する。 (袋の評価をする)	ワークシート VTR 「住環境を考える」

(5) 評価の観点

- ア グループ学習、家庭学習に意欲的に取り組んだか。
- イ 販売店でもらう袋に関して材質やごみ問題から理解することができたか。
- ウ 買い物袋を作ることによってごみ問題を自分の問題としてとらえ、自らの生活に結びつけて考えることができたか。
- エ ごみ問題を通して住居の内外の環境の関係を把握できたか。

(6) 授業後の考察

今回の授業では、これまで積極的な取り組みが見られなかった住領域を、身近な題材であるごみ問題と買い物袋の製作を取り上げることによって、具体的な実践の方向へと導けるよう配慮した。

ア 住環境に関する新聞等の切り抜きをまとめたことと、販売店でもらう袋の収集と調査は、動機づけに十分効果があった。

イ 家庭学習を多く取り入れたことにより、それだけ身近な問題であることは理解したようだが、次の授業まで日数があつたため忘れて来る生徒もいた。

ウ 買い物袋（布製）を自分で製作することによって、使用する意欲がでた。

エ 生徒は買い物袋（布製）の使用がごみを減らすことにつながり、結果的に社会環境に影響することを理解した。

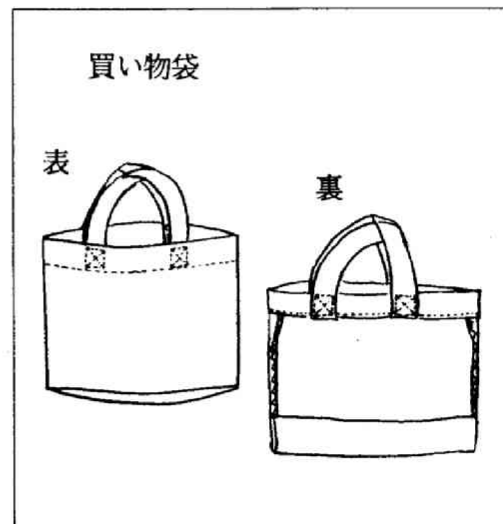
オ 今回、住領域において買い物袋（布製）製作を取り上げたが、この題材は消費者教育の一部として取り上げることもできるし、また、被服実習の導入として、手縫いを用いて基礎縫いの練習やミシン、ロックミシン等の使用方法を含めて学習できると思う。

(7) 生徒の感想

ア 販売店でもらう袋をクラス分集計してみて、あまりの多さにとても驚いた。「無駄なんだなあ」と思った。

イ 袋作りは簡単で時間内にきれいにできたし、自分で作ったものが役に立つのはうれしい。

ウ 全体を通して、ごみ問題解決を身近なものに感じた。



〔事例6〕 環境問題を通して生活認識を深める住生活領域の指導

(1) 題材名 環境問題と住まい方

(2) 題材設定の理由 住生活領域では、住居を取り巻く環境問題に着目し、自分自身の身近な問題として、また自らの課題として住まい方を考えられるようこの題材を設定した。

健康で快適な住生活を営むためには、衛生的かつ安全な生活環境が必要不可欠である。また、地域環境に対する配慮は、私たち一人一人のライフスタイルとも関連すると考えられる。日常生活は地球資源の消費によって支えられている。その資源・エネルギーの大量消費は、地球の自然破壊や身近な生活環境の悪化などの環境問題を引き起こしている。環境問題の解決は行政による政策のみならず、生活者の問題意識や実際の行動が重要なカギを握るものである。広い視野に立って環境問題の現状を認識し、自分の住まい方が環境にどのような影響を与えるのかを理解することが大切となる。社会との関わりの中で生活全般を見通し、自分と環境との関わりに対する認識を深め、住まい方の改善・工夫に持続的に取り組んでいこうとする意欲や態度が求められる。

そこで“Think Globally Act Locally”考えは地球規模で行動は足元からを念頭に、より良い住まい方についての知識や情報収集手段を選択する能力を調査活動・実験を通して体験的に身に付けることを目的として本題材を設定した。

- (3) 学習目標 ① 環境問題の現状を理解し、解決への取り組み策を考える。  
 ② 自分の行動が環境へどう影響するか、その環境が自分にどう影響するかを認識する。  
 ③ 収集した情報と自分たちの意見・考えをまとめたものをグループ研究報告書として作成する。
- (4) 事前準備 ① 「環境」に関する新聞・雑誌の記事収集。(新聞・雑誌名, 日付)  
 ② 「環境」に関する書籍調べ。(題名, 著者名, 出版社, 価格)  
 ③ 作文「地球を救うために、いま私たちができること」

(5) 指導計画 14時間 (第2学年 女子)

授業項目	時間	授業過程	備考
1.環境問題への取り組み (地球環境問題)	2	○学習計画をもとに調査・実験を主とした学習活動の重要性を認識する。	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する意識調査</li> <li>・地球的規模の環境問題</li> <li>・グループ研究の準備</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○飲み水・ごみ・環境問題に関するアンケートを実施する。環境に対する意識の確認と現在、国際的に取り上げられている地球環境問題を認識する。</li> <li>○以上を基に、興味を持って選んだテーマごとのグループ編成を行う。</li> <li>○研究テーマについて話し合う。テーマ決定。</li> </ul>	<p>ワークシート 集計中に「環境に関する書籍一覧」記入 環境庁資料 書籍「地球にやさしい生活術」</p>
<p>2. 「ごみ」の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政活動の状況</li> <li>・校内の実態</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○私たち消費者全員がごみ問題に関わっていることを再認識する。</li> <li>○行政活動として、大田区リサイクル推進課などの取り組みを理解する。</li> <li>○リサイクル社会を目指す現状と問題点。</li> <li>○校内のごみ収集場所の状況等ごみの実態を知り、改善策を考える。</li> </ul>	<p>VTR「裁かれるのは誰だ・ゴミ法廷」 ワークシート 資料プリント 校内写真</p>
<p>3. 「水」の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上下水道の汚染状況</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水資源の状況、おいしく安全な水についての認識を深める。</li> <li>○東京都水道局の事業内容を知る。</li> </ul>	<p>VTR「水の問題」 ワークシート</p>
<p>4. 校外学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大田区立生活センター</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ研究活動（係担当者への質問・リサイクルショップの見学・資料調べ）</li> <li>○生活センターの役割、地域施設の重要性を認識する。</li> </ul>	<p>スライド「ゴミを減らす」 ワークシート</p>
<p>5. 実験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水道水とミネラルウォーター</li> <li>・生活排水</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水道水とミネラルウォーターを飲み比べる。</li> <li>○水道水の残留塩素を測定する。</li> <li>○生活排水のCOD値を測定する。</li> <li>○結果を発表、水を汚さない生活の工夫について話し合う。</li> </ul>	<p>ワークシート パックテスト 資料プリント</p>
<p>6. グループ研究原稿作成</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○原稿作成上の留意点を確認する。</li> <li>○各グループが取り組んできたテーマの調査・研究を報告書用紙にまとめる。</li> </ul>	<p>ワークシート</p>



7.製本	2	○原稿を『グループ研究報告書』として製本。 ○各グループの発表を行う。 ○他のグループの発表を聞き、評価をする。 ○環境に関わる「住まい方」についての考えをまとめ	ワークシート
・発表会			
・まとめ			

#### (6) 評価の観点

- ア 地球環境問題の現状を現実の生活と併せて認識できたか。(新聞記事・書籍・作文)
- イ 環境問題を身近な課題として認識できたか。(アンケート調査・グループ研究・実験)
- ウ 地域住民の生活をバックアップする行政の活動を理解できたか。(校外学習)
- エ 校内の環境実態を知り、改善策を考え、実行できたか。(授業後の感想)
- オ 情報収集の手段を偏りなく取り入れることができたか。(グループ研究報告書)
- カ 課題解決に向けての取組み計画・手段について理解できたか。(グループ研究の分担)

#### (7) 授業後の考察

- ア 事前の課題により、環境問題に対する興味が高められた状態で授業に取り組めたが、他教科との関連・連携も考慮すべき題材であった。
- イ 実験により、水質汚染の状況を視覚的に捕えることができた。今回、パックテストを使用したのが、簡便で効果的であった。しかし、生活排水の実験をする場合、試液に何を選ぶかを十分検討する必要がある。
- ウ グループ研究による活動は、積極的に施設等を訪問したグループもあれば書籍による調査を中心にまとめたグループもあり、様々であったが、自主的にグループの分担責任は果たされていた。
- エ 環境問題は単独ではなく『住まい方』すべてに関わってくることなのだ、ということに一人一人が気付き、改善行動を起こそうとする意欲を養うことを目的に授業を展開したが、授業の前後の関連を重視した、様々な角度からのアプローチが重要であることを一層強く感じた。

### Ⅲ 研究のまとめと今後の課題

本年度の教育研究員は、『課題解決能力を培う家庭科の指導』をテーマに、課題解決能力は特定の実験・実習、調査によってのみ培われるものではなく、学習過程の中で身に付けるものであるとの観点に立って研究した。生徒自らが課題意識をもって改善・解決していく意欲と実践力・自己教育力を身に付けることを目指すものである。

指導事例では、指導計画の中の「授業過程」に継続性・関連性を持たせ、生徒自身が生活に関わる課題に眼を向け、体験的に自ら課題解決へと導く過程を重視した。生徒主体の活動を中心に、家庭経営・衣生活・食生活・住生活の各領域を取り上げ題材設定を行った。

事例1では、地域における福祉の現状について認識し、高齢者に関する諸問題に対応できる手段・方法について調査・研究を実施した。事例2では、衣生活に関わる商品・サービスの現状の認識と収集した情報の中から必要なものを取り出し、まとめ・発表する活動を行った。事例3では実験・調査を通して、身の回りの食品の安全性・衛生・栄養上の問題点を見つけ、食生活を改善しようとする態度の育成を図った。事例4では、加工食品の長所・短所を理解し、利用状況を認識した上で問題点を見つけ出し、改善方法を考え、食生活を振り返るきっかけとした。事例5では、ごみ問題に関する調査・実習を行い、一人一人の努力が社会環境を変えることを買い物袋を通して考えさせた。事例6では、環境問題の現状と課題意識を持った住まい方について調査・実験を通して理解させ、その結果を表現することを試みた。

以上の事例を通して、課題を解決しようとする意欲は、生徒にとって身近な題材の設定や継続的な授業展開で、引き出すことができることを確認した。ただし、テーマを通して一つの問題点を提示しても、それを受け止める生徒の感覚は様々であるので、反応をある程度予測し、それらに対する配慮や授業準備が必要である。また、発問の内容やタイミング、その課題に対する教師の熱意が生徒の心を揺り動かす要因の一つになっていることを感じた。最終的には、学習過程における努力を認められること、自分自身が課題を解決したという充足感を得ることが、次の課題解決へ向けての意欲につながる。そして、課題解決学習をくり返し経験することにより、実践力が身に付いていくものと考えられる。

今後は、生徒の課題解決の意欲を発展的に導き、達成感・成就感を味わい、より良く生きようとする意識に継続するよう、一層の教材の精選が必要である。また、課題に取り組む態度や調査・実習等をどのように評価していくか、評価法の研究も課題として残されている。